

令和6年度円山小学校学力・学習状況調査結果の分析

R6.10

I. 学習状況調査結果

児童質問紙

(肯定的な回答をした児童)

「良好」であること

○対話的な学びを通して、考えを深めたり、広げたりしている児童が多い。

- ・「自分と違う意見について考えるのは楽しい。」 (円山小 89.2% 県 80.3% 全国 75.8%)
- ・「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、新たな考え方に気付いたりすることができている。」 (円山小 91.9% 県 90% 全国 86.3%)

○ICT機器を活用して学習を進めることができる児童が多い。

- ・「5年生までの学習の中でPC・タブレットなどのICT機器を活用して、分からないことがあったときに、すぐ調べることができている。」 (円山小 96% 県 95.3% 全国 92.1%)
- ・「5年生までの学習の中でPC・タブレットなどのICT機器を活用して、楽しみながら学習を進めることができている。」 (円山小 91.9% 県 90.2% 全国 86%)
- ・「5年生までの学習の中でPC・タブレットなどのICT機器を活用して自分の考えや意見を分かりやすく伝えることができている。」 (円山小 86.4% 県 86.9% 全国 79.2%)

○地域とつながり、行事に参加している児童が多い。

- ・「地域や社会をよくするために何かしてみたいと思う。」 (円山小 89.1% 県 85.9% 全国 83.5%)

「課題」であること

●課題の解決のために工夫して学習に取り組んだり、自分の考えを他者に伝えるように工夫して発表したりすることが少ない。

- ・「分からないことや詳しく知りたいことがあったときに、自分で学び方を考え、工夫することはできていますか。」 (円山小 81.1% 県 85.8% 全国 80.7%)
- ・「5年生までに受けた授業で、自分の考えを発表する機会では、自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組み立てなどを工夫して発表していましたか。」 (円山小 63.5% 県 67.1% 全国 67.6%)



「今後取り入れていくとよいこと」

- ・児童自身で課題を設定し、取り組む機会を増やしていく。
- ・語彙力や文章力を高めるために読書や音読の時間を大切にする。また、自分の考えを分かりやすく表現する力をつけるために話し合いや伝え合いの時間をしっかり設けるようにする。

2. 学力調査結果

国語

平均正答率・・・円山小学校 77%、 県平均 71%、 全国平均 67.7%

「良好」であること

○情報と情報との関係付けの仕方、図などによる語句と語句との関係の表し方を理解し使うことができる。

・【高山さんのメモ】の書き表し方を説明したものとして、適切なものを選択する2一（2）

（円山小 90.3%、県 89.7%、全国 86.9%）

○人物像や物語の全体像を具体的に想像したり、表現の効果を考えたりすることができる。

・【物語】を読んで、心に残ったところとその理由をまとめて書く3三

（円山小 90.3%、県 79.9%、全国 72.6%）

○日常的に読書に親しみ、読書が、自分の考えを広げることに関与することに気付くことができる。

・【原さんの読書の記録】の空欄に入る内容として適切なものを選択する3四

（円山小 86.1%、県 79.7%、全国 74.6%）

「課題」であること

●話し言葉と書き言葉の違いに気付いていない。

「知識及び技能」オンラインで交流する場面において、和田さんが話し方を変えた理由として適切なものを選択する1二（1）

（円山小 73.6%、県 77.9%、全国 75.9%）

【問題】和田さんは、村木さんの発言④を受けて、発言③の話し方を発言⑤のように変えました。和田さんが話し方を変えた理由として最も適切なものを選びなさい。

- ① 言葉の順序に気をつけて短い文で話したほうがよいことに気づいたから。
- ② 相手に応じて敬語を使ったほうがよいことに気づいたから。
- ③ まちがった情報をすぐに直したほうがよいことに気づいたから。
- ④ 同じ音で異なる意味をもつ言葉を使わないほうがよいことに気づいたから。

③ メールありがとうございました。図書委員会のことを知りたいということでしたので、まず、海風小学校の図書委員会の取り組みのしょうかいで、読書イベントが、月に1回、図書委員会で、クイズなどをして、私もそれに参加して、今まで読んだことがない分野の本を読みました。

④ せっかく教えてもらったのですが、だれが何をしているのかが分からなくなったので、もう一度教えてもらえませんか。

⑤ 説明がよくなかったですね。話し方を変えますね。図書委員会が、月に1回、クイズなどの読書イベントをしてくれます。私もクイズに参加しました。今まで読んだことがない分野の本を読むことができました。



<今後取り入れていくとよいこと>

- ・話し言葉と書き言葉のちがいをおさえる。

●資料などを活用するなどして、自分の考えが伝わるように表現を工夫しているかを捉えられていない。

「話すこと・聞くこと」オンラインで交流する場面における和田さんの話し方の工夫として適切なものを選択する ☐ 1 ☐ 2 (2) (円山小 58.3%、県 57.5%、全国 52.9%)

【問題】和田さんは発言⑥を受けて、発言⑦のように話しました。和田さんの話し方のくふうとして適切なものを選びなさい。

- 1 相手が興味をもっていることに気づき、相手の言葉を引用して話した。
- ☒ 2 相手が興味をもっていることに気づき、用意していた実物を示しながら話した。
- 3 相手が興味をもっていないことに気づき、言葉の意味を説明しながら話した。
- 4 相手が興味をもっていないことに気づき、自分の体験を加えて話した。

⑥ よく分かりました。おもしろそうですね。

⑦ そうなんです。先月の読書イベントでは、図書委員がさまざまな分野から本を選び、本の内容からクイズを出題してくれました。これが、実際に出題されたクイズが書かれたカードです。私も参加することで、科学の本に興味をもつことができました。

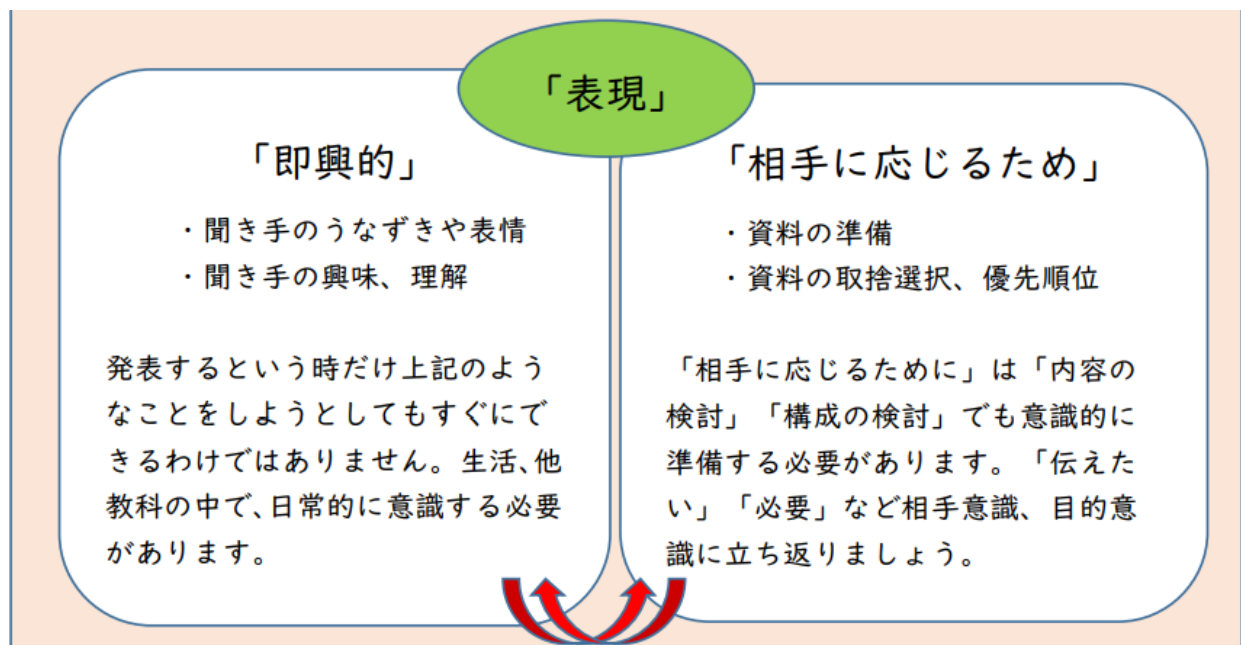
原因

- ・実際に話す場面で、聞き手のうなずきや表情などに注意しながら、聞き手の状況に応じて表現の工夫を考える活動が十分に行われていない。
- ・聞き手の興味・関心や聞き手がもつ情報量を予想し、どのような資料を用意すればよいか考える活動や聞き手の反応を確かめながらやりとりの練習をする活動が十分に行われていない。

<今後取り入れていくとよいこと>

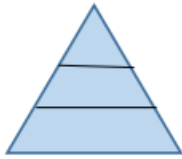
- ・表現の学習を充実させる。

表現は、発表やスピーチの本番の場面だけではない。表現を練習する場面やよりよくなるために準備し試行錯誤する場面も「表現」となる。表現で重要なことは、「相手意識」「目的意識」である。



調べたことがたくさんあり、情報量が多くなって、目的を見失って情報量が多くなったときは以下のような方法で、情報を整理することもできます。
例：

伝えたいベスト3	理由
1, ○○○	_____
2, ☆☆☆	_____
3, ※※※	_____

重要ピラミッド	理由
	_____



相手が理解しやすい内容や情報量だと、聞き手も「もっと知りたい」「もっと聞きたい」という思いになり、それが、表情に出たり、質問になったりする。そこで話し手は「即興的」な力が求められる。「相手に応じるため」「即興的」を両輪で活用することが「表現」の力を付けていくことにつながる。

●条件に合わせて文章を書けていない。

「書くこと」【高山さんの文章】の空欄に入る内容を、【高山さんの取材メモ】を基にして書く²ニ
(円山小 69.4%、県 61.0%、全国 56.6%)

(条件)

○「たてわり遊び」のよさについて考えたことを書くこと。

○【高山さんの取材メモ】の下級生に聞いたことから言葉や文を取り上げて書くこと。

○六十文字以上、百文字以内にまとめて書くこと。

【高山さんの文章】

みんな仲良し「たてわりはん」

わたしたちの学校には、1年生から6年生までのメンバーが、同じはんで活動する「たてわりはん」の取り組みがあります。「運動会」や「たてわり遊び」を通して、ちがう学年の人とも仲良くなります。

「運動会」は、「たてわりはん」ごとに赤、青、黄の色を決め、3色対こうで行います。上級生が下級生に伝えんての仕方を教えたり、下級生も楽しめるように、アきょうごの作戦を考えたりします。「みんなでつな引きをして楽しい」という2年生や、「下級生といっしょに伝えんて熱い気持ちになる」という5年生がいます。このように、「運動会」のよいところは、みんなの心が一つになるところだと思います。

「たてわり遊び」は、毎月1回、休み時間に「たてわりはん」で遊ぶ活動です。みんなが楽しめるように、6年生が、遊びたいことを下級生に聞いたり、ルールをくふうしたりします。例えば、ドッジボールでは、上級生が遠くからボールをイなげるようにしています。

【高山さんの取材メモ】

「たてわり遊び」について

6年生がくふうしていること

- 遊びたいことを下級生に聞く
- ルールをくふうする
- ドッジボール 上級生は遠くからボールをなげる

下級生に聞いたこと

- 1年生 お兄さんやお姉さんと遊べて楽しかった
- 3年生 好きな遊びや新しい友達が増えた
- 4年生 みんなが楽しそうであそびかった

二 高山さんは、次の「高山さんの文章」の²に、【高山さんの取材メモ】をもとにして考えた「たてわり遊び」のよさを書こうとしています。あなたが高山さんなら、²に入る内容をどのように書きますか。あとの条件に合わせて書きましょう。

<今後取り入れていくとよいこと>

目的や意図に応じて、事実と感想や意見とを区別して書くなどして、書き表し方を工夫することができるよう指導をする。

書くことへの抵抗感を軽減するために、児童の「書きたい」と思う課題で書く活動を多く取り入れる。テーマや構成を考える段階で対話する場面を設けるなど、協働で取り組む活動を取り入れる。

算数

平均正答率・・・円山小学校 74%、 県平均 67%、 全国平均 63.4%

「良好」であること

◇16問中、すべての問題が国の正解率を上回っている。また16問中14問、県の正解率を上回っている。

◇すべての領域で県の正答率を上回っており、特に「A 数と計算」「C 変化と関係」「D データの活用」では、7ポイント以上、上回っている。

領域「数と計算」「数と式」において、基本的な計算などは身に付いている。

1(2) 数量の関係を、□を用いた式に表すことができるかどうかをみる問題

はじめに持っていた折り紙の枚数を□枚としたときの、問題場面を表す式を選ぶ。

(円山小 **97.2%**、県 89.8%、全国 88.5%)

4(1) 除数が小数である場合の除法の計算をすることができるかみる問題

$540 \div 0.6$ を計算する

(円山小 **90.3%**、県 78.4%、全国 70.1%)



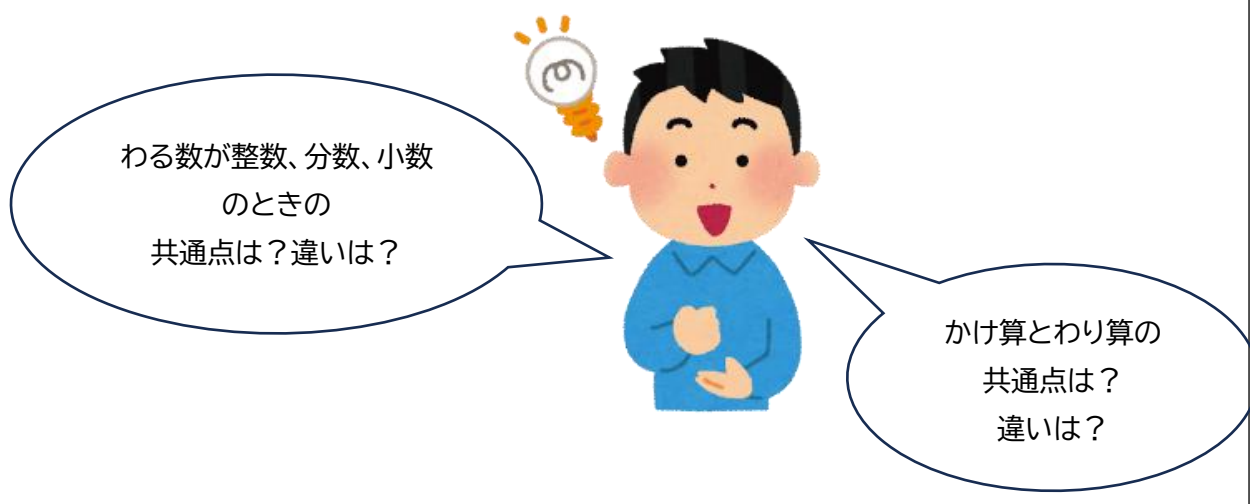
「今後取り入れていくとよいこと」

☆除法の学習において、「**なぜその式・計算方法・結果になるのか**」の理解を大切にする。

○**関係図**や**線分図**を使用し、数量関係を視覚的に捉えさせる指導を充実させる。

○児童自身が除数(わる数)と商の数量関係の性質に気づき、まとめていく活動を大切にする。

また乗法の時との共通点や違いを確認することで、より深い理解につながる。



「課題」であること

① 領域「図形」 図形の構成要素を正しく見つけ出すことに課題がある。

3(2) 円柱の展開図について、側面の長方形の横の長さが最適なものを選ぶ

(円山小 73.6%、県 74.6%、全国 71.3%)

(2) 図1のような円柱があります。



図1

図1の円柱を、図2のように切り開くと、展開図ができます。

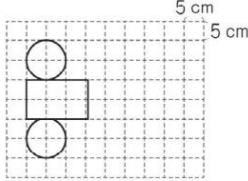


図2

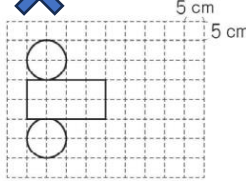
図1の円柱の展開図を、側面の形を長方形にして、工作用紙にかきます。
このとき、長方形の横の長さは、円柱の底面の円周の長さと同じになります。

図1の円柱の展開図はどれですか。
下の 1 から 4 までの中から、最もふさわしいものを1つ選んで、その番号を書きましょう。

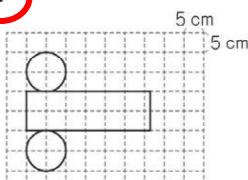
1



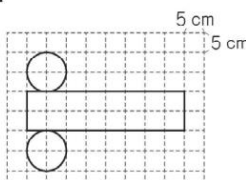
2 ✕



3



4



誤解: ② (18%) ……円周の長さを直径の長さの2倍であると誤って捉えている。

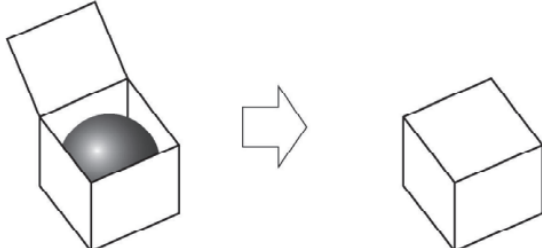
3(3) 直径 22cm のボールがぴったり入る箱の体積を求める式を書く

(円山小 41.7%、県 38.9%、全国 36.5%)

(3) 直径 22 cm の球の形をしたボールがあります。



このボールがぴったり入る立方体の形をした紙の箱の体積を調べます。



この立方体の形をした紙の箱の体積が何 cm^3 かを求める式を書きましょう。
ただし、紙の厚さは考えないものとします。また、計算の答えを書く必要はありません。

○ $22 \times 22 \times 22$ と解答
 球の直径の長さ = 立方体の一辺
 立方体の体積 = 1 辺 $\times$ 1 辺 $\times$ 1 辺

誤解

✕ 22×22 と解答 (11.1%)
 一つの面の面積を求めている。

✕ 3.14 を用いた式を解答 (20.8%)
 円や球の立式問題はすべて 3.14 がでてくると覚えている。



「今後取り入れていくとよいこと」

① 円柱の展開図をかく場面において、底面となる円の

直径の長さ、円周の長さ、円周率の関係しっかりおさえることが大切！

② 言葉の意味や状況を理解できるように、**具体物やデジタルコンテンツ**を活用した

数学的活動を充実させ、様々な経験をさせる。

「ぴったり入る」「ぴったり重なる」などの言葉から、正確な状況をイメージし、理解する活動を充実させる。また、その過程で「ぴったり」なときは等しい長さや角度があることにも気付かせることも大切！

② **正しい結論や考えをもつことはできるが、正しい説明として表現すること**

と記述式の無回答が多いことに課題

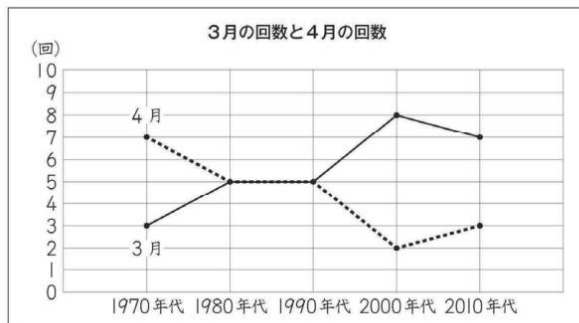
5 (3) 折れ線グラフから必要な数値を読み取り、条件に当てはまることを言葉と数を用いて記述できるかどうかをみる

(円山小 63.9%、県 48.2%、全国 44.0%)

無回答(円山小 4.2%、県 8.9%、全国 12.6%)

(3) こうたさんは、1970年代から2010年代について、C市の桜の開花日の月を調べました。すると、1970年代以降は、開花日の月が3月と4月のどちらかであることがわかりました。

そこで、開花日の月について、各年代の3月の回数と4月の回数を、下のように折れ線グラフに表しました。



こうたさんたちは、左の折れ線グラフをもとに、気づいたことについて話し合っています。



1970年代は、3月の回数より4月の回数のほうが4回多いですね。



3月の回数と4月の回数が同じ年代がありますね。



3月の回数と4月の回数のちがいが大きい年代がありますね。

左の折れ線グラフで、3月の回数と4月の回数のちがいが最も大きい年代はいつですか。また、その年代について、3月の回数と4月の回数のちがいは何回ですか。

ちがいが最も大きい年代と、その年代について、3月の回数と4月の回数が何回ちがうかを、言葉と数を使って書きましょう。

誤解



違いが最も大きい年代が2000年代であることは記述できているが、2000年代の3月の回数と4月の回数の違いが6回であることは記述できていない

「今後取り入れていくとよいこと」

★自分の考えを伝える活動を多く取り入れる。

☆授業者が、正しい説明に必要な条件を明確にもって指導する。

○批判的な考察の視点を与えながら、正しい説明に必要な条件を明らかにしていく活動を取り入れましょう。

(例) 小学校 4(3)

① かなたさんの方がかかった時間が短いから、かなたさんの方が速い。

② この説明で大丈夫かな？

③ その説明だと、かなたさんの方が短い道のりだったから時間が短いと思われるかも？ 同じ道のりだったことも言わなきゃいけないね。

④ そうだね。この説明では、
・2人は同じ道のりを歩いたこと
・かなたさんの方がかかった時間が短いこと
・だから、かなたさんが速い(結論)
を言わなきゃいけないんだね。

算数・数学における効果的な振り返りについて

☆適用問題による振り返りで資質・能力の育成につなげる。

○「～が分かりました」「～が難しかったです」などの振り返りは、付けたい資質・能力につながるものになっていますか？ 文章での振り返りも方法の1つですが、適用問題を解くことも効果的な振り返りと言えます。学んだことがどのような場面で活用できるのか、自分のものとして使えるようになっているのかを実感させることで、自分の学びを振り返らせましょう。また、適用問題の正答率や誤答類型を分析することで児童生徒を正しく評価できるとともに、その評価を生かして授業改善することにもつながります。

